

多自然川づくり取り組み事例

タイトル : 川内川水系かわまちづくり轟地区における取り組みについて		
水系/河川名 : 川内川水系川内川	河川分類 : 大河川	
河川の流域面積 : 1600	整備計画流量 : 1850m ³ /s	セグメント : 2-1
事業 : 環境整備	事業開始年度 : 平成29年度	
目標設定 : 定性的	段階 : D(実施・施工時)	
課題・目的(主な) : 流下能力の確保、水辺へのアクセス改善		
工法(主な) : 護岸整備、階段工の整備、管理用道路の整備		
配慮事項(主な) : 河川景観への配慮、歴史・文化への配慮、委員会、協議会等の開催		

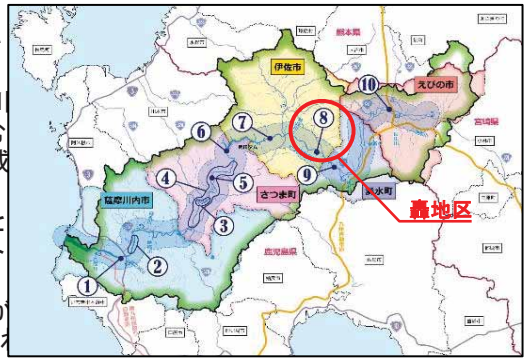
背景・課題、目標設定

<背景>

川内川流域は、過去に平成9年や18年洪水等により甚大な被害を受けており、床対事業や激特事業等の河川改修を実施してきた。これらのハード対策と併せて防災・減災のためのソフト対策を川内川沿川の関係機関(国、県、市、町)及び地域住民で連携して取り組むことで、事前防災や災害に対する流域一体での強固な繋がりが醸成されてきた。

この流域一体の取組み(財産)を地域振興にも活かすことを目的として、川内川水系一体でのかわまちづくりが平成29年度よりスタートし、流域で計10箇所の整備が行われることとなった。

そのうちの1箇所である轟地区では自然景観が良好であり、流水がダイナミックに変化することから、カヌー競技で全国から利用者が訪れる場所であるが、安全性や利便性が課題となっており、景観性を高め、河川利活用の向上を図る目的で、今回整備を行った。



川内川水系かわまちづくり計画(事業期間:5年)

<課題>

・利活用面(カヌー利用)の安全性の確保

<整備目標>

「ダイナミックに変化する水の流れと河岸の岩盤・巨石・緑が織りなす自然豊かな景観の保全」と「安全で快適な利活用の促進」の両立。

<整備方針>

- ・カヌー競技者の利用しやすい水辺空間の整備
- ・カヌー大会時に観戦しやすい観覧場所の整備
- ・回遊性と維持管理性に配慮した散策路の整備
- ・既存の景観の改変を最小とする
- ・既存の景観に極力馴染む構造物とする

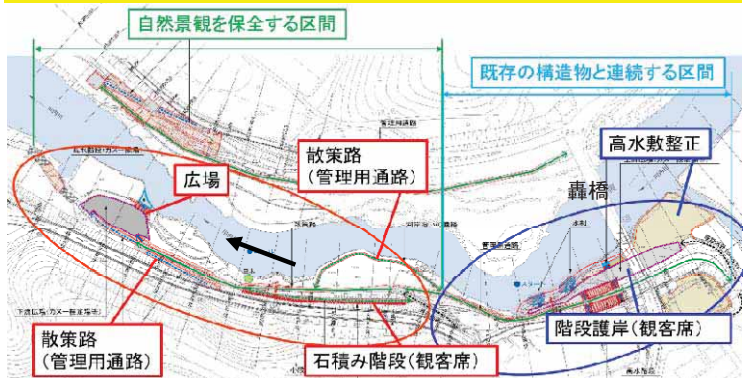
取り組み内容・対策例(1/2)

<設計段階>

○「景観委員会の設置・開催」…学識者、設計コンサルタント、国

○「轟地区かわまちづくり推進協議会の設置・開催」
…学識者、設計コンサルタント、地元自治体、カヌー協会、住民代表、国

関係者の意見を幅広く集約し、整備方針・計画を作成・共有



整備計画図



安全なカヌー利用・水辺へのアクセスが困難



景観委員会



轟地区かわまちづくり推進協議会

取り組み内容・対策例(2/2)

＜施工段階＞

○轟地区かわまちづくり推進協議会及び施工業者による、定期的な現地検討会を実施。



- ・施工業者とのイメージの共有
- ・設計段階で定めた整備方針・計画と現場での整合を図る

現地検討会



整備箇所の確認

顔料入りコンクリートのサンプル比較

整備目標1:「ダイナミックに変化する水の流れと河岸の岩盤・巨石・緑が織りなす自然豊かな景観



○巨木・巨石は極力残す



○水際は改変しない



○自然石石積み護岸



○景観配慮(コンクリートの明度低減)

整備目標2:「安全で快適な利活用の促進



○カーン発着場(バリアフリー型)



○現地発生材による石積みベンチ



○階段護岸(観客席)



○散策路(管理用通路)

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜アピールポイント＞

設計から施工段階まで地域住民や関係者と一体となって議論をしながら進めていくことで、景観性、利便性の調和のとれた整備を行った。

2023年鹿児島国体のカーン(スラローム)メイン会場に決定



整備前

整備後



利用状況

＜今後の対応方針＞

- ・整備した石積みの隙間から植生が生育するため、維持管理が重要であることから、カーン協会等、地域一体で管理していく仕組みを構築していく。
- ・川内川水系全体でのかわまちづくり計画及びかわまちづくり観光振興部会を通じて、轟地区を中心に川内川流域の活性化や観光客の増加に繋がるイベントや広報に努めていく。

備考